

須賀川市民交流センター tette
SUKAGAWA COMMUNITY CENTER TETTE



東側外観。スラブがずれながら積層することで、さまざまなテラスが街に現れる。



全体俯瞰。周囲の街並に配慮するように少しずつセットバックするヴォリューム。

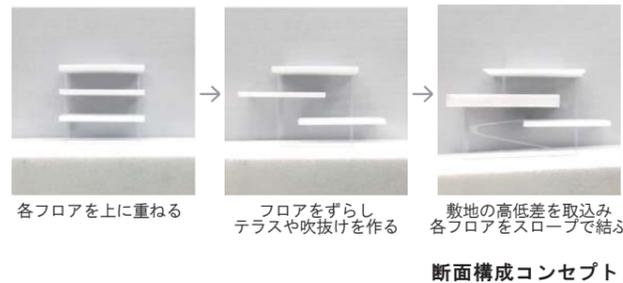


東側外観。イベント時に多くの人で賑わう。

街と人をつなぐ建築

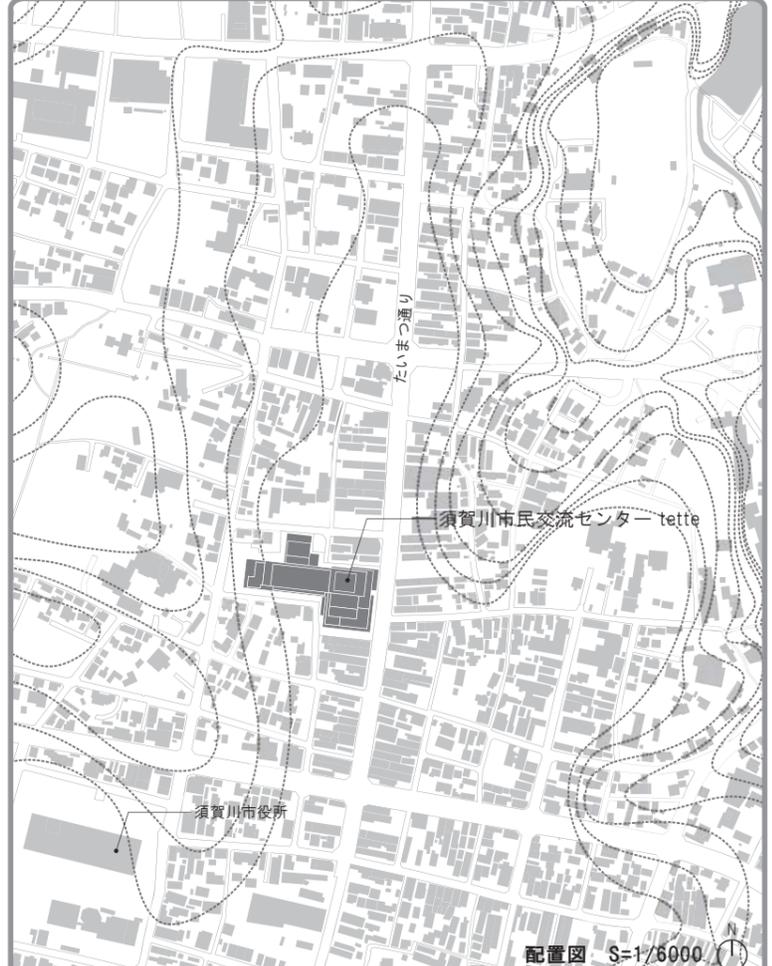
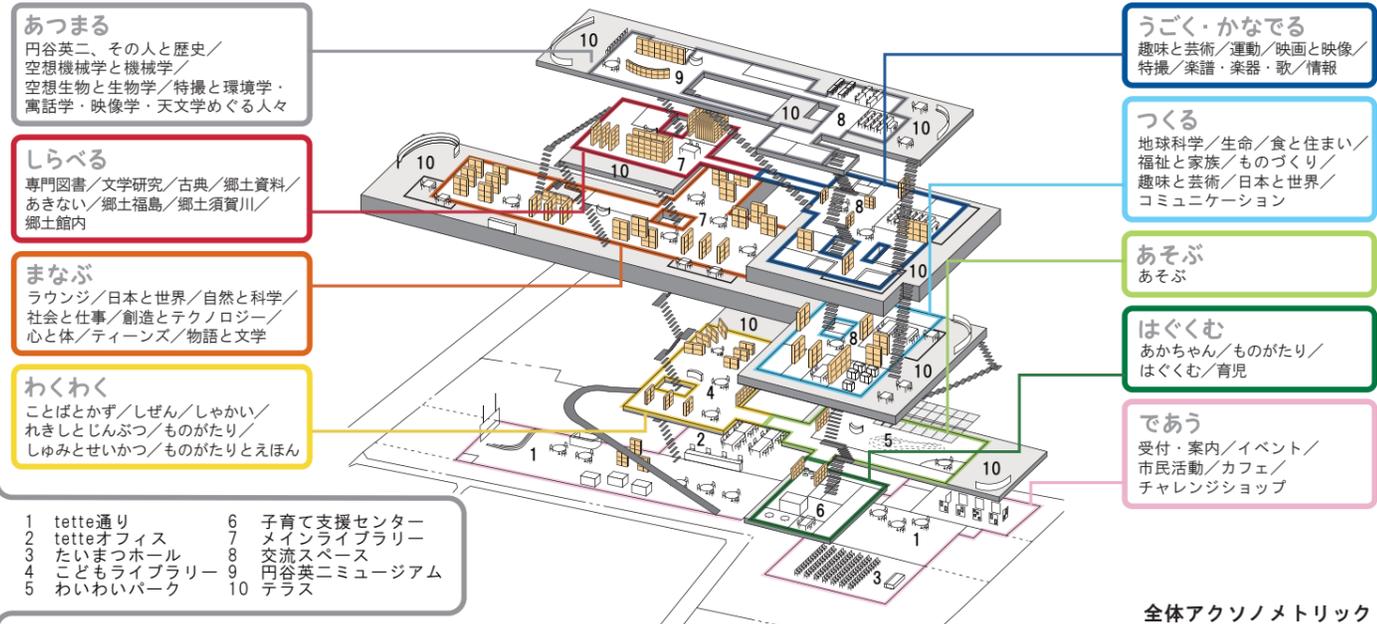
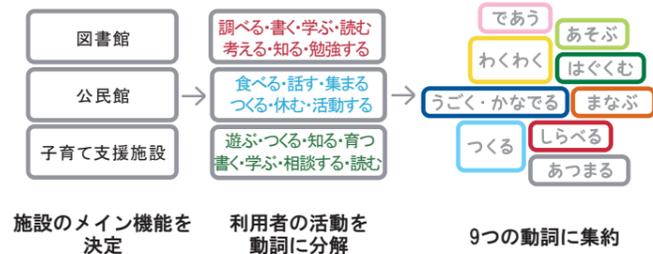
東日本大震災の復興事業として福島県須賀川市につくられた複合施設である。震災によって甚大な被害を受けた街の中心地に図書館などの生涯学習、子育て支援、ミュージアムなど複数の機能をもつ活動の場をつくることで、失われた街の賑わいと市民交流の再生を目指した。

歴史ある目抜き通りに面する敷地に、周囲の民家に配慮しながらスラブ（床）を細かく分け、少しずつセットバックしながら積層している。スラブをずらすことで外部には多くのテラスが生まれ、人々が街に向かって活動する場となり、また内部に生まれる吹き抜けはそれぞれのフロアを断面的、視覚的に繋いでいる。施設のエントランスである1階は約2.5mある敷地の高低差を結んだスロープ状の空間とし、坂の多い須賀川の街が入り込んでくるような開放感のなか、待合いやカフェ、イベントスペースなどを設けた。上階も各フロアを緩やかな階段やスロープで結んでおり、街を歩くように建物全体を巡ることができる。



複合施設から融合施設へ

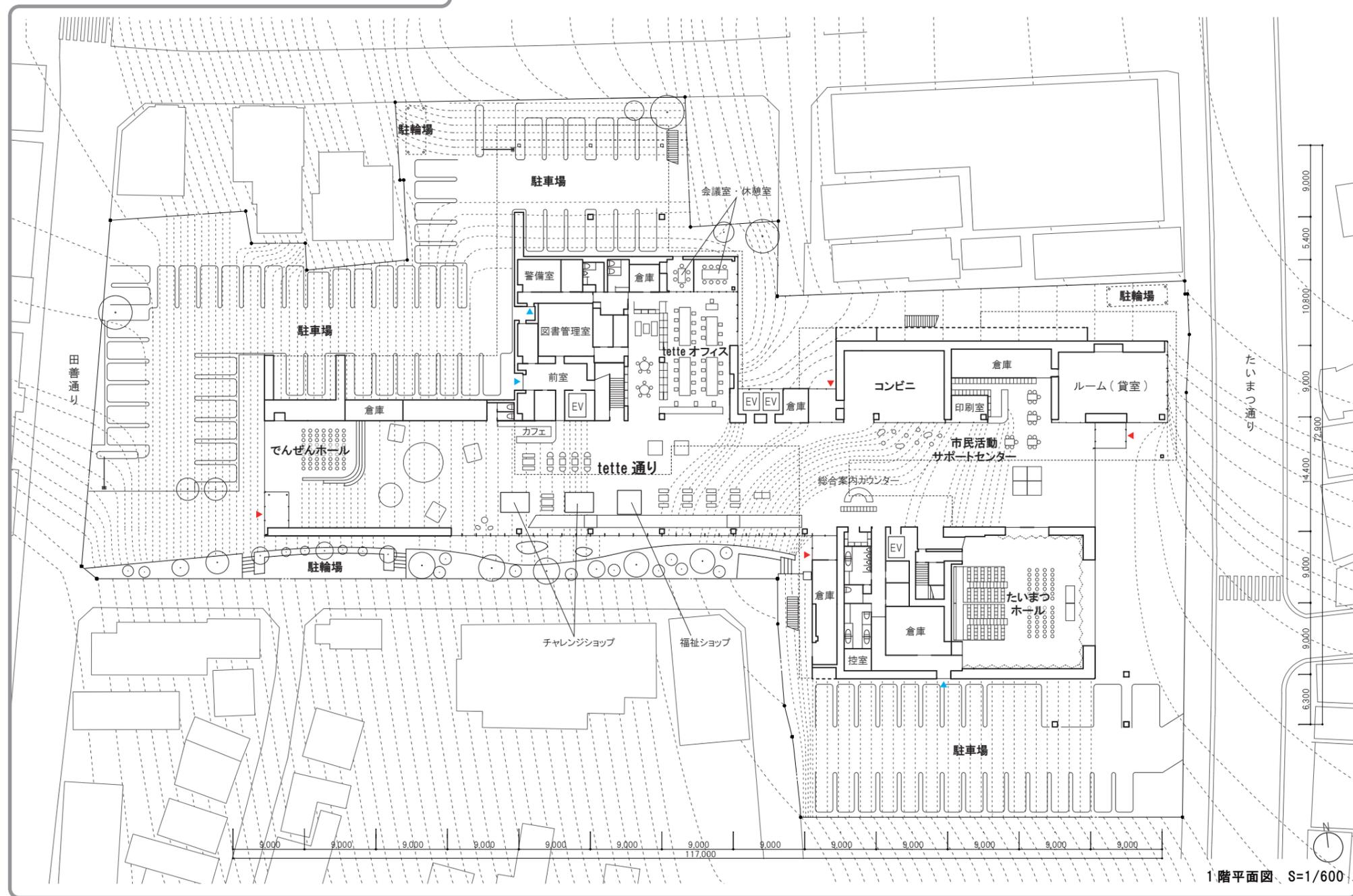
施設のメイン機能（図書館、公民館、子育て支援）を従来の区分から「まなぶ」「つくる」「あそぶ」などの動詞的、活動的な9つのテーマに分類し直した。イメージしやすく、分かりやすいテーマとすることで、多くの人々が目的以外の知識や情報、人と出会い、交流が生まれるきっかけをつくりだしている。さらにその9つのテーマに関連して施設全体に図書を配置することで、施設全体が図書館であり公民館であるような、情報と活動が融合する新しい公共空間を目指した。





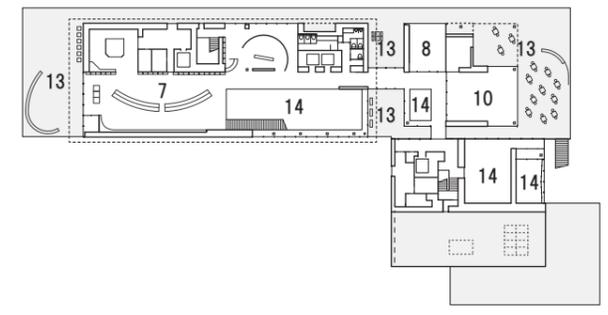
東側エントランスから見る幅約14m、長さ約100mあるtette通り。約2.5mある敷地の高低差を結ぶため床を全体的に傾斜させている。上部には吹抜けを介して各フロアの様子が垣間見える。

敷地の高低差をつなぎ、街の一部となるtette通り

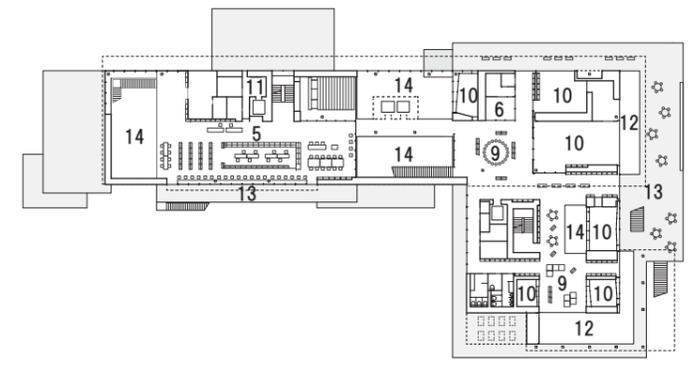


1階平面図 S=1/600

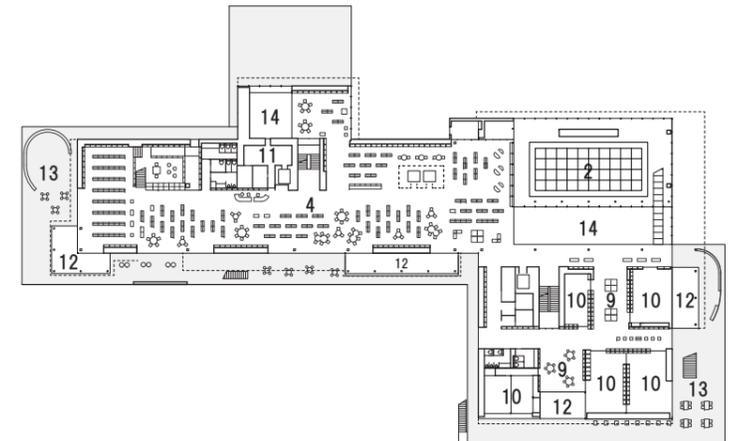
多様なフロアが重なる平面計画



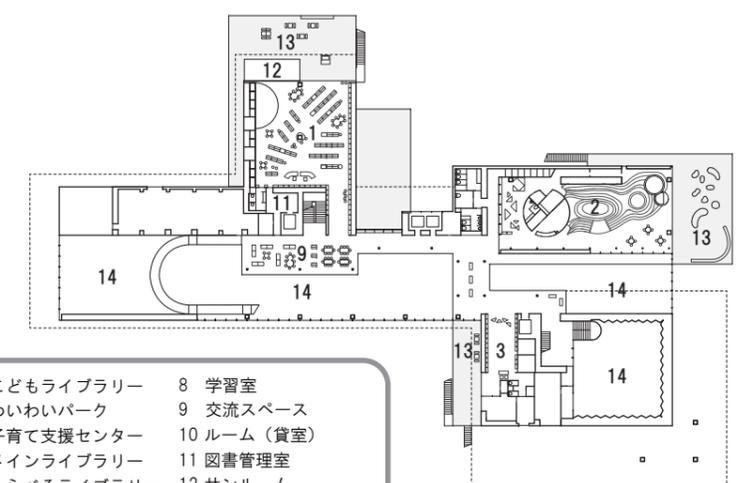
5F 平面図 S=1/1200



4F 平面図 S=1/1200

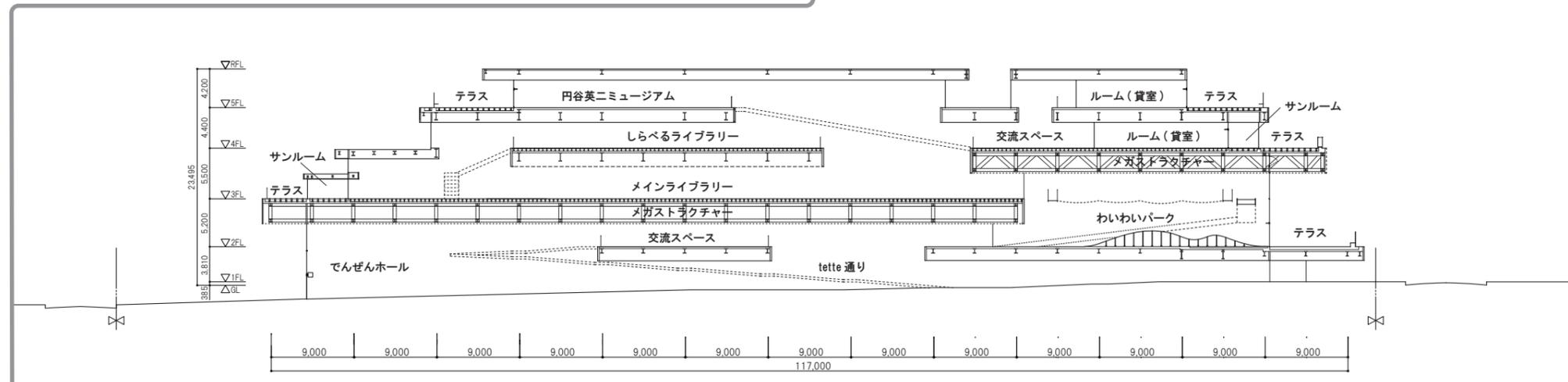


3F 平面図 S=1/1200



2F 平面図 S=1/1200

安全性を確保しつつ、吹抜けやテラスを介して人々の活動を表出する断面計画



断面図 S=1/600

- 1 こどもライブラリー
- 2 わいわいパーク
- 3 子育て支援センター
- 4 メインライブラリー
- 5 しらべるライブラリー
- 6 FMスタジオ
- 7 円谷英二ミュージアム
- 8 学習室
- 9 交流スペース
- 10 ルーム(貸室)
- 11 図書管理室
- 12 サンルーム
- 13 テラス
- 14 吹抜け



西側から見るtette通り。2階へ繋がるスロープは3階のメガストラクチャーから吊っている。



スロープからtette通りを見下ろす。ブース状のチャレンジショップやカフェが並ぶ。



tette通り中央から西側を見る。跳ね出す2階スラブを3階メガストラクチャーから吊っている。



tette通り南側を見る。可動畳や斜面对応のベンチなど、様々な居場所をつくっている。



tette通り西側にある1階でんぜんホール。スクリーンやプロジェクターを設け、サブホールとしても利用できる。



約200人利用可能な1階たいまつホール。東側の建具を全開し、通りと一体的に利用することができる。



2階わいわいパーク（室内遊び場）。床は丘のように起伏し、上空にネット遊具を張っている。一体的な空間でありつつ、高さを利用した遊びの棲み分けを生んでいる。